

乳がん脳転移腫瘍における治療標的分子の発現解析研究

1. 研究の対象

脳転移のある乳がんの方で、1983年1月1日から2018年6月30日の間に当センターで組織生検または手術によって脳転移の腫瘍組織が過去に採取された方が対象となります。

2. 研究目的・方法

この研究では、乳がんの乳房の病巣（原発巣）と脳転移の病巣（脳転移巣）のがん細胞における、HER3、HER2、TROP2、B7-H3といったタンパク質の発現状況について検討します。これらのタンパク質は、治療薬の標的になりうると考えられています。また、乳がんの特徴に関する他のタンパク質（ki67、ER、PgR、EGFR、PTEN、NRG1、Rad51、FOXC1、CD8、CD25、CD44、FOXP3、CTLA4、PD-L1など）の発現についても調べます。

もともと脳には血液脳関門といって、抗がん剤のような薬物が到達しにくい障壁があることが指摘されており、脳転移に対する薬物治療の効果が乏しいとされてきました。しかし最近、乳がんの脳転移のがん細胞において、HER2やHER3といった治療薬の標的となるタンパク質が発現している症例が報告されており、HER2を標的とする抗体結合薬であるトラスツズマブ-エムタンシン（T-DM1）が脳転移にも有用である可能性も示唆されています。こういった分子標的薬が血液脳関門を乗り越えて抗がん作用を発揮するとすれば、脳転移を持つ乳がん患者さんに対する治療法として、期待されることとなります。

一方、乳がんでは、脳転移巣のがん細胞と原発巣のがん細胞の特徴が違うことがあることが報告されています。そのため、両病巣のがん細胞の治療薬の標的分子、あるいは脳転移に関わりうるタンパク質の発現の相違を調べることは治療薬の開発戦略をたてたり、脳転移の分子機構を理解したりする上で意義深いものとなります。

この研究は、第一三共株式会社と共同で研究します。

研究実施期間：研究許可日～2022年4月25日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：生検・手術で摘出した組織

情報：カルテ番号、患者さんの年齢、性別、診断時期、乳がんの組織型、手術時期 等

4. 外部への試料・情報の提供

組織検体標本は、個人が特定できないよう匿名化した研究番号をつけて共同研究機関の第一三共株式会社へ宅配便で送ります。第一三共株式会社は、その一部をHER3の発現測定のためVentana Medical Systems, Inc. A Member of the Roche Groupへ国際宅配便で送ります。検査した結果データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究責任者：国立がん研究センター東病院 腫瘍内科 向原徹

国立がん研究センター東病院

先端医療開発センター

国立がん研究センター中央病院

第一三共株式会社

Ventana Medical Systems, Inc. A Member of the Roche Group

6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。

この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：国立がん研究センター東病院 腫瘍内科 向原徹

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

TEL:04-7133-1111 FAX:04-7134-6922

中央病院窓口：国立がん研究センター中央病院 腫瘍内科 米盛勸

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL : 03-3542-2511

研究代表者：国立がん研究センター東病院 腫瘍内科 向原徹